

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：生駒委員（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第11回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和4年10月5日（水） 13:30 ～ 15:30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委 員（部会長：志村 陽子） <敬称略>				
	蛭子 明子	山内 京子	福田 美和	一色 ふみ子	栗田 修平
	生駒 友一	宇田尻 浩司	棧敷 洋子		
	事務局：森合 美穂・秋山 仁志・大本 哲也・江川 奈保美・堀内蘭				
1 連絡・確認事項	<p>(1) 司会・書記の確認（司会：福田委員 書記：生駒委員）</p> <p>(2) 参加者・配布資料の確認</p>				
2 前回の振り返り	<p>第10回専門部会議事録・ご意見カードより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月29日に開催した自立支援協議会運営会議の報告。自立支援協議会全体交流会の内容を検討。 ・11月8日に第2回避難行動要支援者対策連絡会議を開催予定。進捗状況などを意見交換する場のため、意見ある方は代表で参加する志村部会長へ伝えてほしい。 ・11月11日に防災会議が開催予定。議題は「東京都が発表した新たな被害想定について」となっている。 				
3 議題	<p>(1) 「カフェ」・「在宅避難」講演の振り返りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロスロードゲームとマイタイムラインの違いについて知りたい。 ⇒マイタイムラインは、参加者の家族構成や生活環境、地域特性に応じた独自の計画を作成するものだが、クロスロードゲームは様々なシチュエーションを想定して「その時あなたはどうか？」という問いに対し、回答理由をグループワーク内で共有する。物事の判断に慣れることを目的とするため、正解はなく、身の安全に関する諸課題への解決を目指すものではないので、マイタイムラインとは質的に異なる。 ・クロスロードゲームの質問に、Yes/Noの以前に、どのような立場で回答すれば良いかと迷ったり戸惑ったりした。様々な事を知ることができて有意義で楽しかった。 ・講演はとても参考になった。特に寝室の防災対策の重要性に気づかされた。また、避難所は大田区の想定である「区民の20%」も実際には入ることはできないことが知れたのは良かった。父母の会の幹事会で、「まずは命を守らないといけない」と確認しながら情報共有できて良かった。 ・あらためて自分が備えていないことを再認識した。「地震が起きた時にもし外出していたら何をすれば良いか…」など、事前にある程度イメージトレーニングしておかなければと思った。 ・興味深い話で、自分の所属団体でも情報共有した。まず自分の周りの環境を確認して、マップを作る。また、避難所に手話通訳者の設置、準備をしていただければと改めて感じた。 ・クロスロードゲームは正解がなく、少数意見を出しやすい工夫がされていた。また、自分が出した答えを同じグループのメンバーと共有する事に意義があるということで、楽しみながら取り組めた。また、防災に関しては日頃からのご近所づきあいが特に大事である旨の話が聴けて良かった。 <p>(2) 今後の「カフェ」の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「権利擁護」について防災・あんしん部会で取り組むにあたって、なぜ「カフェ」なのか説明をお願いしたい。 				

⇒権利擁護を考える時、「権利擁護」という漢字 4 つのお堅い言葉で考えるのではなく、障がい当事者の方も多く参加しているこの部会では、「あんしん」という優しい言葉を選んで、防災・あんしん部会とした。障害者権利条約や障害者差別解消法の基本的な勉強をした上で、研究者でも学者でもない私たちが、地域で「権利擁護」のことを話題にしていくには、そんな「場面」をつくったら良いのではないかと考えて、みんながゆるっと集まれるだろう「カフェ」を提案した。東京都の他区市町村で当事者の方を中心に「カフェ」を開催している事例も参考にした。

- ・「部会」ではなく「カフェ」のかたちにする理由を確認しておかないと、段々と当初の目的が曖昧になる懸念がある。自立支援協議会の役割として、地域課題の抽出する機能がある。
- ・防災・あんしん部会であんしんカフェをモデル的に始めてみて、そこでのノウハウは固まったら、より外に向けてあんしんカフェが広がっているイメージを持っていた。
- ・文化人類学者の川喜田二郎が考案した KJ 法は、グループワークで広く取り入れられている。自由な発言で、質より量でどンドンアイデアを出していき書き出していく。少数意見も出しやすい手法。今回、事務局があんしんカフェで皆さんが出してくれた意見やアイデアを分類して資料を提示しているが、こうしたことはまさに KJ 法によるグループワークだと感じる。少数意見も出しやすいようにカフェのような雰囲気、自由に気軽に意見を出して、その後に地域課題を抽出する作業につなげていく。そんな取り組みとしてあんしんカフェを続け、広めていければ良い。

4 委員及び関係機関からの情報提供

(1) 情報提供

- ・リカバリーカレッジおおた講座の紹介
- ・「来て見て知って 災害ボランティア」（おおた地域共生ボランティアセンター主催）
大田区社会福祉協議会が災害ボランティアセンターおおた地域共生ボランティアセンターの役割を広く地域の皆様に知っていただく機会として、毎年地域を変えて開催している。
- ・視覚障がい者の理解啓発の取り組みとして小中学校で出前授業を実施している。
- ・2025 年東京でデフリンピックが開催。大田区内でも 2 会場で開催。
- ・「ぼうさいこくたい」「さぼーとぴあ NEWS」（事務局）

(2) ご意見カードの記入

※次回の日程

専門部会：令和 4 年 12 月 7 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

さぼーとぴあ A 棟 5 階多目的室

作業部会：12 月の部会「合理的配慮について」に向けて開催予定。（日程調整中）